

ビジョン実現に向けた施策の全体体系

43の
課題解決のための
取り組みを行います

目標	課題	取組み
1 濤沸湖の保全と 活用に資するモニタリング の実施と情報の蓄積	○湖の水環境の保全 ・自然環境の保全 ・汽水湖の維持 ・湖の水質と底質の保全 ・水環境のモニタリング ・河川などの適正な管理 ○湖の自然環境全般の保全 ・漂砂による堆積の対策 ・湖畔の緩衝帯の保全 ・淡水魚の生息環境の保全 ・土砂流出対策 ・漂流ごみの対策 ○濤沸湖・原生花園の動植物の保全 ・原生花園の植生保全 ・ゾーニングの検討 ○自然情報の蓄積・発信 ・自然生物情報の集積と発信 ・浅化状況データの蓄積	1. 各種自然（地形、地質、水質、景観要素等）調査の実施 2. 植生などの保護管理 3. 塩湿性植物の保全と再生 4. 外来種を除去し在来植生の保全と再生 5. 多様な主体による自然環境調査の実施 6. 湖の生態系調査 7. 濤沸湖や原生花園の生態系を保全するための鳥獣被害防止策の検討 8. 野焼きなど保全と再生への参加 9. 環境配慮型農業の推進と支援 10. 耕畜連携の推進 11. 湖内水質調査の実施 12. 近隣工場からの排出水の水質調査 13. 河川の水質環境基準調査の実施 14. 汽水湖の維持を目的とした多様な主体による監視活動の実施 15. 事業所からの排水処理の適正化 16. 合併浄化槽の導入など生活排水浄化対策の実施 17. 関係機関による資源動態調査の実施 18. 資源評価手法の開発 19. 資源の維持安定対策の検討 20. サケ、マス、ニシンなどの増殖手法の検討 21. 漁場環境保全の普及啓発と勉強会の実施
2 濤沸湖の自然を活かした 地域振興	○観察拠点の維持とアクセスの向上 ・既存施設の改善 ・観察施設とアクセスの整備 ・公共交通アクセスの充実 ○視点場の確保と発信 ・周辺景観の保全 ・遺跡・史跡の調査・保全 ○地域のブランド化と発信 ・地場産品の地域ブランド化 ○レクリエーション機能の充実 ・ふれあい環境の整備 ・交流拠点の整備 ・レクリエーション機能の充実	1. 住民が気軽に森とふれあえる森林空間の創出 2. 観察しやすい空間の整備 3. 既存施設の整備改善 4. 畑や放牧地など農村景観の保全 5. 地産地消の推進による地域内消費の拡大 6. クリーン農業の取組みと減農薬や有機栽培の推進 7. 産地や農産物のブランド化の取組みと支援 8. 地場産品を活用した加工製品開発に対する支援 9. 植樹祭の開催と緑化活動の推進 10. 観光イベントの見直しと新規イベントの創出
3 濤沸湖を知り・誇りを 胸に集う協働体の構築	○環境保全への理解向上 ・その他のごみの対策 ・普及と啓発 ○協働体制の強化 ・住民・産業活動の取組みと支援	1. （ごみ）収集運搬体制構築による不法投棄の防止 2. 廃プラスチックの再資源化と適正処理方法の検討 3. 環境美化活動の推進と支援 4. 環境保全や湿地に関する情報の集積と公開、普及啓発 5. ボランティアやガイド、専門員の養成と活動の充実化 6. 施設を利用した各種観察会の実施と交流の推進 7. 環境学習機会やレクリエーションの場の提供 8. 湿原の生態や自然景観を体感できる環境教育の推進と実施 9. ラムサール条約湿地を有する市町村などとの連携 10. 民有林所有者に対する環境保全の啓発 11. 環境配慮型開発行為の普及促進 12. 開発行為の確認体制の充実

濤沸湖環境保全活用ビジョンに関する
お問い合わせなどは、下記までお寄せください

濤沸湖水鳥・湿地センター
〒099-3112 網走市字北浜 203 番 3 地先（白鳥公園隣）
TEL・FAX 0152-46-2400

ビジョンの計画期間と推進体制

本ビジョンは、原則 10 年単位で改定し、5 年目に
中間の見直しを行います。
個々の取組みは、年に 1 回程度開催される「濤沸湖
エコツーリズム推進協議会」で進捗を確認します。

第 2 期濤沸湖環境保全活用ビジョン

～概要版～

網走市
小清水町
合同策定

ビジョン策定の経緯

『濤沸湖環境保全活用ビジョン』は、自然と調和した持続可能な社会を築き、貴重な自然資源を次世代に引き継ぐことを目的として、平成 23（2011）年に策定されました。本ビジョンは策定から 14 年が経過し、この間に濤沸湖に棲む生きものやその恵みを受け取っている私たちの生活は少しずつ変化してきました。そこで、現状に即した内容へ改定し、新たなビジョンとして、「人と自然が共生す

る濤沸湖」を据えました。さらに濤沸湖における課題と課題解決に向けた取組みを見直すことで、より保全と活用を推進しやすい体制へと再構築しました。



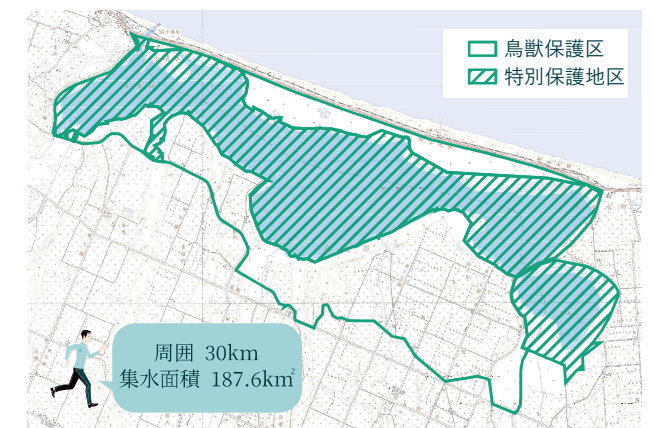
ビジョン本編・
資料編はこちらから
ご覧いただけます

濤沸湖とは

濤沸湖は、アイヌ語の「ト・ブツ（湖の口）」を語源とする海跡湖です。海岸草原と湿地に囲まれ、海水と淡水が入り混じった汽水湖で、四季折々に、多種多様な生きものがみられます。濤沸湖は国指定鳥獣保護区およびラムサール条約登録湿地となっているほか、網走国定公園に指定されています。

濤沸湖でみられる生きもの

令和 4～5（2022～2023）年にかけて文献調査を行い、過去の文献や最新のデータを基に生物目録を作成しました。文献調査の結果、濤沸湖やその周辺で確認された生きものは哺乳類 12 科 17 種、鳥類 54 科 266 種、昆虫類 89 科 396 種、魚類 21 科 40 種、底生動物 67 科 108 種、植物 101 科 665 種となりました。



環境省や北海道などのレッドリストやレッドデータブックに掲載されている希少種も、哺乳類では 3 科 3 種、鳥類では 26 科 74 種、昆虫では 15 科 32 種、魚類では 7 科 8 種、底生動物では 6 科 7 種、植物では 24 科 61 種確認されています。濤沸湖に生息・生育する生きものは右下の QR コードからご覧いただけます。



ヒシクイ



キタミフクジュソウ



エゾカミキリ



キヌキツネ



オオワシ



アッケシソウ



アカメイトトンボ



サクラマス（ヤマメ）



チュウビ



フタマタイチゲ



カラフトキリギリス



濤沸湖で
みられる生物は
こちらから
ご覧いただけます

2050 年 濤沸湖の将来像

人と自然が共生する濤沸湖

生物多様性を保全する活動を通じて、人と自然が共に生きる未来を描きました。かつて濤沸湖でも見られたアカモズやアカメイトンボが再び姿を現し、さまざまな生きものと人が共に暮らせる豊かな環境になることを願っています。

環境教育や情報発信

子供や地域住民、観光客を対象とした自然観察会を実施しているほか、大学生への授業などを行っています。「こどもラムサール」の活動支援や原生花園でのゴミ拾いを行っています。

外来種の駆除活動

濤沸湖ファンクラブなどが中心となって外来植物の抜き取り駆除を継続し、湖への外来種の侵入を防止しています。

期間限定のカヌーガイドツアーの実施

知識を有したガイドが、水鳥などの野生動物に配慮してカヌーを運行します。ツアー中には水草や、水鳥の繁殖状況等のモニタリング調査を同時に行い、湖の保全活動に役立つデータを収集しています。

